歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和３年　１月１８日

独立行政法人水資源機構
筑後川上流総合管理所長　杉尾　俊治

１．目的

この歩掛参考見積の募集は、両筑平野用水事業で予定している業務の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

２．参考見積書提出者の資格

(1) 水資源機構における平成３１・３２年度一般競争（指名競争）参加資格業者のうち土木関係建設コンサルタント業務の認定を受けていることとします。
(2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
(3) 当機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成６年５月３１日付け６経契第４４３号）に基づき、筑後川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

３．参考見積書の提出等

参考見積書は次により提出してください。
(1) 参考見積書は作業項目毎に必要な作業員（技術者）の人数等を記載して提出してください。
なお、参考見積書の様式は別紙見積様式を参考に作成してください。
(2) 提出期間　令和３年　１月１９日（火）から令和３年　１月２８日（木）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、９時００分から１７時００分まで（１２時００分から１３時００分までを除く）
(3) 提出先
独立行政法人水資源機構筑後川上流総合管理所　所長　杉尾　俊治　宛
【担当】総務課　久保　和也
〒838-0012
福岡県朝倉市江川 1660-67
TEL　(0946)25-0113　　FAX　(0946)25-1455
(4) 提出方法
参考見積書は郵送又は FAX（いずれの場合であっても社印があること）により提出するものとします。

４．参考見積内容

(1) 基本条件
歩掛参考見積の歩掛は、両筑平野用水施設におけるストックマネジメントに係る各種調査・検討等を行うことについて、実績等に基づくものを参考に積み上げた標準的な歩掛とします。

(2) 業務目的

両筑平野用水施設におけるストックマネジメントに係る各種調査・検討等を行うことを目的とするものである。

(3) 作業項目・作業内容

作業項目・作業内容の詳細については、別紙見積仕様書のとおりとします。

(4) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

①本歩掛参考見積に適用する業務費の構成は、国土交通省が別に制定する「設計業務等標準積算基準書」（以下「基準書」と言う）に準じるものとします。

②歩掛参考見積の募集範囲は基準書で定義されている直接人件費のうち、上記「(3)作業項目・作業内容」を実施するために必要な技術者の人数等を徴取します。

(5) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和２年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

５．募集要領に対する質問

この依頼書に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

(1) 提出期間：令和３年　１月１９日（火）から令和３年　１月２２日（金）まで

持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、９時００分から１７時００分まで（１２時００分から１３時００分までを除く）

(2) 提出場所：３．(3) に同じ

(3) 提出方法：３．(4) に同じ

６．質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

(1) 閲覧期間：令和３年　１月２６日（火）から令和３年　１月２８日（木）まで

(2) 閲覧方法：本募集要領を掲載したホームページを確認願います。

７．参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

８．ヒアリング

提出して頂いた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

９．問い合わせ先

３．（３）の提出先に同じ。

10. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

別紙見積様式

ストックマネジメント調査・検討　見積様式

１．計画準備

１式当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
計画準備						

※構造物数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

２．現地踏査

2-1　現地踏査（線的構造物）

6km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
現地踏査								

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※トンネル及び暗渠等における投光器（懐中電灯などの小型のものは除く）、発電機に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（km/日）を記載してください。（記載方法自由）

※踏査延長、断面などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

2-2　現地踏査（点的構造物）

2 施設当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
現地踏査								

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（施設/日）を記載してください。（記載方法自由）

※施設数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

2-3　水張り試験

10 回当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
水張り試験								

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（回/日）を記載してください。（記載方法自由）

※計測回数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

2-4　流量観測

10 回当り

作業項目	測量主 任技師 （人）	測量 技師 （人）	測量 技師補 （人）	測量 助手 （人）	測量 補助員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
流量観測							

※上表に示す技術者の職種について変更する必要がある場合は、上表を修正のうえ作成してください。なお、技術者の職種については、国土交通省が公表している「令和２年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（回/日）を記載してください。（記載方法自由）

※計測回数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

３．現地調査（コンクリート構造物）

3-1　近接目視（線的構造物）

500㎡当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械経費 （%）	材料費 （%）
近接目視								

※作業対象面積は近接目視を行う壁面等の面積とする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※水路トンネル及び暗渠等における投光器（懐中電灯などの小型のものは除く）、発電機に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（㎡/日）を記載してください。（記載方法自由）

※作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-2　近接目視（点的構造物）

600㎡当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械経費 （%）	材料費 （%）
近接目視								

※作業対象面積は近接目視を行う壁面等の面積とする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（㎡/日）を記載してください。（記載方法自由）

※作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-3　コンクリート強度推定調査

20 測点当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
ｺﾝｸﾘｰﾄ強度推定調査								

※コンクリート表面の簡易な清掃を含むものとする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（測点/日）を記載してください。（記載方法自由）

※測点数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-4　小径コア採取

10 本当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
小径コア採取								

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（本/日）を記載してください。（記載方法自由）

※採取本数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-5　小径コアによる圧縮強度試験

10 本当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
小径コアによる圧縮強度試験								

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。
※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）
※１日当たりの標準作業量（本/日）を記載してください。（記載方法自由）
※試験本数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-5　小径コアによ中性化試験

10 本当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械経費 （%）	材料費 （%）
小径コアによる圧縮強度試験								

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。
※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）
※１日当たりの標準作業量（本/日）を記載してください。（記載方法自由）
※試験本数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-6　鉄筋探査

25 箇所当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械経費 （%）	材料費 （%）
鉄筋探査								

※測定内容は、測定面積 60cm×60cm 程度の範囲を走査線６本（４辺＋中央を十字）についての測定とする。
※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。
※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）
※１日当たりの標準作業量（箇所/日）を記載してください。（記載方法自由）
※箇所数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してくだ

さい。（記載方法自由）

3-7　中性化深さ調査（ドリル法）

12 箇所当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
中性化深さ調査(ﾄﾞﾘﾙ法)								

※１箇所当たりの削孔は３孔を想定している。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（箇所/日）を記載してください。（記載方法自由）

※箇所数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-8　調査結果とりまとめ（線的構造物）

10km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
調査結果とりまとめ						

※断面積及び延長などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

3-9　調査結果とりまとめ（点的構造物）

10 施設当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
調査結果とりまとめ						

※構造、施設数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

４．現地調査（パイプライン）

4-1　近接目視（DCIP）φ800～1000

300㎡当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
近接目視								

※作業対象面積は近接目視を行う管内面の面積とする。

※管内面の簡易な清掃を含むものとする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※管内における投光器（懐中電灯などの小型のものは除く）、発電機に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（㎡/日）を記載してください。（記載方法自由）

※口径、作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

4-2　近接目視（管更生管）　既設管口径は φ800～1350

300㎡当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
近接目視								

※作業対象面積は近接目視を行う管内面の面積とする。

※管内面の簡易な清掃を含むものとする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※管内における投光器（懐中電灯などの小型のものは除く）、発電機に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（㎡/日）を記載してください。（記載方法自由）

※口径、作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

4-3　たわみ量測定

10 測点当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
たわみ量測定								

※管内面の簡易な清掃を含むものとする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※管内における投光器（懐中電灯などの小型のものは除く）、発電機に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（測点/日）を記載してください。（記載方法自由）

※口径、測点数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

4-4　調査結果とりまとめ（パイプライン）

10km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
調査結果とりまとめ						

※口径及び延長などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

５．健全度評価

5-1　健全度評価（線的構造物）

10km 当り

作業項目	技師長（人）	主任技師（人）	技師Ａ（人）	技師Ｂ（人）	技師Ｃ（人）	技術員（人）
調査結果とりまとめ						

※断面積及び延長などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

5-2　健全度評価（点的構造物）

10 施設当り

作業項目	技師長（人）	主任技師（人）	技師Ａ（人）	技師Ｂ（人）	技師Ｃ（人）	技術員（人）
調査結果とりまとめ						

※構造、施設数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

5-3　健全度評価（パイプライン）

10km 当り

作業項目	技師長（人）	主任技師（人）	技師Ａ（人）	技師Ｂ（人）	技師Ｃ（人）	技術員（人）
調査結果とりまとめ						

※口径及び延長などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

６．現地調査（コンクリートダム）

6-1　ダム概要表の作成

10 施設当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
ダム概要表の作成						

※施設数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-2　外観目視調査（堤体）

200m² 当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
外観目視調査								

※作業対象面積は外観目視を行う表面積とする。

※交通整理などの安全管理に係わる費用は含まない。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（m²/日）を記載してください。（記載方法自由）

※作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-3　外観目視調査（監査廊）

200m² 当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
外観目視調査								

※作業対象面積は近接目視を行う壁面等の面積とする。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（m²/日）を記載してください。（記載方法自由）

※作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-4　外観目視調査（余水吐）

200㎡当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
外観目視調査								

※作業対象面積は外観目視を行う表面積とする。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（㎡/日）を記載してください。（記載方法自由）

※作業対象面積などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-5　監査廊における漏水量調査

10回当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
外観目視調査								

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（回/日）を記載してください。（記載方法自由）

※計測回数などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-6　観測施設に関する調査（浸透量）

1式当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
観測施設に関する調査						

※作業年数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-7　観測施設に関する調査（揚圧力）

1式当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
観測施設に関する調査						

※作業年数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-8　観測施設に関する調査（変形量）

1式当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
観測施設に関する調査						

※作業年数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

6-9　観測結果の分析及び安全性評価指標の検討

1式当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
観測結果の分析及び安全性評価指標の検討						

※対象分析年数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

７．貯水池内・堤体周辺の法面調査

7-1　貯水池内調査

10km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
貯水池内調査								

※巡視船の操船費用、燃料費用、機械経費費用は含まないものとする。

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（km/日）を記載してください。（記載方法自由）

※延長などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

7-2　堤体周辺調査

10km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任 技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）	機械 経費 （%）	材料費 （%）
堤体周辺調査								

※機械経費及び材料費については、直接人件費に対する割合を記載してください。なお、当該経費を計上する場合には経費毎に主要な資機材の内容を記載してください。（記載方法自由）

※１日当たりの標準作業量（km/日）を記載してください。（記載方法自由）

※延長などに応じて補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

８．報告書作成

8-1　報告書作成（線的構造物）

10km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
報告書作成						

※断面積及び延長などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

8-2　報告書作成（点的構造物）

10 施設当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
報告書作成						

※構造、施設数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

8-3　報告書作成（パイプライン）

10km 当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
報告書作成						

※口径及び延長などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

8-4　報告書作成（コンクリートダム）

10 施設当り

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
報告書作成						

※調査項目数などにより補正を行う必要がある場合は、補正項目毎に補正率を記載してください。（記載方法自由）

現況水利機能の照査及び対応策の検討　見積様式

作業項目	技師長 （人）	主任技師 （人）	技師Ａ （人）	技師Ｂ （人）	技師Ｃ （人）	技術員 （人）
1.現地踏査						
2.資料の検討						
3.現況施設における最大通水能力の照査						
4.現況施設改修案の構想設計及び概略検討	－	－	－	－	－	－
4-1.改築案の構想設計	－	－	－	－	－	－
4-1-1.基本条件の検討						
4-1-2.水利計算						
4-1-3.改修案の選定						
4-2.改築案の概略検討	－	－	－	－	－	－
4-2-1.平面図等作成						
4-2-2.数量計算						
4-2-3.概算工事費積算						
4-3.総合検討						
4-4.照査						
5.報告書作成						

各項目の単位は「１式」とする。なお、「4.現況施設改修案の構想設計及び概略検討」の作業延長は、0.5km を想定している。

別紙

見　積　仕　様　書

令和３年１月

独立行政法人水資源機構

筑後川上流総合管理所

１．業務目的

両筑平野用水施設におけるストックマネジメントに係る各種調査・検討等を行うものである。

２．見積りの前提条件（貸与資料）

以下の貸与資料を受けた前提として見積りを行うものとする。

(1) 施設の管理用図面

(2) 過年度までのストックマネジメントに関する調査報告書（コンクリートダム除く）

・平成 20 年度右岸取付水路内面調査等業務

・平成 23 年度三奈木導水路他機能診断業務

・平成 28 年度両筑平野用水施設機能診断調査業務

・平成 29 年度両筑平野用水施設機能保全計画更新等業務

(3) 江川ダム及び江川ダム貯水池に関する調査報告書

・平成 21 年度江川ダム施設現況調査業務

・平成 23 年度江川ダム法面現況調査等業務

(4) 江川ダムの維持管理に関する資料

(5) 江川ダム観測計器の計測データ[漏水量、揚圧力、堤体変形量]（○年度～○年度）

(6) 両筑平野用水二期　三奈木導水路改築実施設計業務　報告書（平成 18 年 12 月）

(7) 両筑平野用水二期　三奈木導水路改築工事　完成図（平成 19 年 5 月）

(8) 両筑平野用水二期　寺内幹支線水路実施設計業務　報告書（平成 21 年 3 月）

(9) 両筑平野用水二期　三奈木導水路改築工事　完成図（平成 22 年 1 月）

(10) 両筑平野用水二期　寺内幹支線水路分水工改築補足設計業務　報告書（平成 22 年 3 月）

(11) 両筑平野用水二期　寺内分水工外改築施工計画等検討業務　報告書（平成 25 年 3 月）

(12) 両筑平野用水二期　三奈木導水路付帯施設改築工事　完成図（平成 28 年 7 月）

(13) 両筑平野用水設計資料　第２編頭首工

(14) 両筑平野用水設計資料　第３編水路

(15) 両筑平野用水設計図集

(16) 江川ダム取水施設水利計算書（昭和 50 年 3 月）

(17) 両筑平野用水管理記録

(18) その他、調査職員が必要と認めたもの

３．ストックマネジメント調査・検討

3-1　計画準備

調査開始に先立ち、貸与資料を把握するとともに、調査の内容を十分検討したうえで、作業計画を立案するものとする。

3-2　現地踏査

3-2-1　現地踏査（線的構造物）

過年度までの調査結果等に基づき巡回目視により劣化状況及び変化を概括的に把握し、その結果を記録するとともに、主な劣化要因の推定を行う。なお、巡回目視には、簡易な器具による測定を含むものとする。

3-2-2　現地踏査（点的構造物）

過年度までの調査結果等に基づき巡回目視により劣化状況及び変化を概括的に把握し、その結果を記録するとともに、主な劣化要因の推定を行う。なお、巡回目視には、簡易な器具による測定を含むものとする。

3-3　水張り試験

(1) パイプラインを対象に、調査職員が指定する位置において、試験開始から 24 時間後の減水量を測定し、漏水の有無を確認する。なお、試験開始前後のバルブ操作、管内の充水作業、巡視点検等の作業は含まないものとする。

(2) 上記結果に基づき対象施設における水利用・水理性能に係わる変状の概況を整理する。

3-4　流量観測

(1) 開水路、トンネルを対象に、調査職員が指定する位置において、流速計により流速を測定し、断面積を乗じて流量を算出する。

(2) 上記結果に基づき対象施設における水利用・水理性能に係わる変状の概況を整理する。

3-5　現地調査（コンクリート構造物）

3-5-1　用語の定義

本仕様で規定する用語は次のとおり定義する。

・線的構造物：開水路、暗渠・サイホン、トンネル

・点的構造物：頭首工、水位調整施設

3-5-2　近接目視（線的構造物）

準拠基準に基づき構造物の内面より目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、以下に示す変状等定量的に把握するとともに、スケッチを作成する。

（調査対象項目）

調査対象項目	対象施設
・ひび割れ(形状・幅，規模、付随物、漏水の有無、段差)	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・浮き	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・剥離・剥落	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・析出物（ひび割れを含むものを除く）（エフロレッセンス、ゲルなど）	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・錆汁（ひび割れを含むものを除く）	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・摩耗・すりへり	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・洗掘	トンネル
・鉄筋露出の程度	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・変形・歪み	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・欠損・損傷	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・沈下・蛇行	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・構造物周辺の変状(背面土の空洞化（打音による確認を含む)、周辺地盤の陥没・ひび割れ、抜け上がり等)	開水路、暗渠・サイホン、トンネル
・目地の変状(開き、段差、止水板の破断又は損傷、漏水状況、周縁コンクリートの欠損等)	開水路、暗渠・サイホン、トンネル

3-5-3　近接目視（点的構造物）

準拠基準に基づき目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、以下に示す変状等定量的に把握するとともに、スケッチを作成する。

（調査対象項目）

調査対象項目
・ひび割れ(形状・幅，規模、付随物、漏水の有無、段差)
・浮き
・剥離・剥落
・析出物（ひび割れを含むものを除く）（エフロレッセンス、ゲルなど）
・錆汁（ひび割れを含むものを除く）
・摩耗・すりへり
・鉄筋露出
・変形・歪み
・欠損・損傷
・沈下、傾倒
・構造物周辺の変状(エプロン、床版、護床工、護岸工、魚道等)

・目地の変状(開き、段差、止水板の破損、漏水状況、周縁コンクリートの欠損等)
・その他（管理橋における床版、堰柱張出し部の損傷など）

3-5-4　コンクリート強度推定調査

リバウンドハンマーによりコンクリート表面を打撃し、反発度を測定（JIS A 1155）することにより強度を推定する。

3-5-5　小径コア採取

(1) 既設構造物の鉄筋位置を確認後、JIS A 1107に準拠し、圧縮強度試験、中性化試験が可能な直径φ25㎜程度のコアを採取するものとする。

(2) 作業方向は水平方向とする。

(3) 小径コアの削孔穴については、採取完了後、無収縮モルタル等により補修するものとする。

3-5-6　小径コアによる圧縮強度試験

(1) 小径コアによる圧縮強度試験は、JIS A 1108, JIS A 1132, JIS R 5201 に準拠して実施する。

(2) 上記試験結果の評価及び考察（異常データのチェック含む）を行うものとする。

2-5-7　小径コアによる中性化試験

(1) 圧縮強度試験用に採取した小径コアを使用してフェノールフタレイン法により中性化試験を行う。なお、試験方法については、JIS A 1152に準拠して実施するものとする。

(2) 上記試験結果の評価及び考察（異常データのチェック含む）を行うものとする。

3-5-8　鉄筋探査

鉄筋探査器（レーダ法又は電磁誘導法）を用いて鉄筋位置、かぶりの探査を行う。

3-5-9　中性化深さ調査（ドリル法）

コンクリートドリルにより削孔し、その削粉を用いて中性化深さを測定（NDIS 3419）する。なお、削孔箇所のモルタル補修作業を含むものとする。

3-5-10　調査結果のとりまとめ（線的構造物）

準拠基準に基づき現地調査（定点調査）票を作成し、現地調査結果を整理する。

3-5-11　調査結果のとりまとめ（点的構造物）

準拠基準に基づき現地調査（定点調査）票を作成し、現地調査結果を整理する。

3-6　現地調査（パイプライン）

3-6-1　近接目視（DCIP）φ800～1000

準拠基準に基づき構造物の内面より目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、以下に示す変状等定量的に把握するとともに、スケッチを作成する。

（調査対象項目）

調査対象項目
・発錆状況
・継手曲げ角度
・継手間隔
・沈下

3-6-2　近接目視（管更生管）　既設管口径はφ800～1350

準拠基準に基づき目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、以下に示す変状等定量的に把握するとともに、スケッチを作成する。

（調査対象項目）

調査対象項目
・ひび割れ
・欠損
・しわ
・たるみ（未硬化）
・浮き
・剥離
・摩耗
・その他変状

3-6-3　たわみ量測定

管内において天地方向及び左右方向におけるたわみ量を測定し、たわみ率を算定する。

3-6-4　調査結果のとりまとめ（パイプライン）

準拠基準に基づき現地調査（定点調査）票を作成し、現地調査結果を整理する。

3-7　健全度評価

3-7-1　健全度評価（線的構造物）

過年度までの調査結果及び上記の調査結果等を総合的に検討し、健全度の判定を行う。

3-7-2　健全度評価（点的構造物）

過年度までの調査結果及び上記の調査結果等を総合的に検討し、健全度の判定を行う。

3-7-3　健全度評価（パイプライン）

過年度までの調査結果及び上記の調査結果等を総合的に検討し、健全度の判定を行う。

3-8　現地調査（コンクリートダム）

3-8-1　ダム概要表の作成

(1) 貸与資料に基づきダム概要表を作成する。概要表に記載する内容は次のとおりとし、記載様式については調査職員が指示するものとする。

・ダム名及び貯水池名
・所在地
・水系名及び河川名並びに河川区分
・目的
・ダム諸元（形式、堤高、堤頂長、堤体積、利用水深、設計洪水量、常時満水位、予備放流水位、最低水位）
・貯水池諸元（総貯水容量、有効貯水容量、直接集水面積、間接集水面積、貯水面積、取水量）
・事業の経緯（事業着工年度、工事着手年度、試験湛水実施年度、安全性評価実施年度、完成年度）
・ダムの管理・運用状況（管理の状況（体制、管理水位））
・点検歴
・堤体及び付帯施設の補修・補強歴
・その他

(2) 本概要表については、調査職員と協議のうえ貸与資料より当該ダムに係わる主要図面を添付するものとする。

3-8-2　外観目視調査

3-8-2-1　堤体

(1) 目視（簡易な計測を含む）又は写真により堤体コンクリート（上下流面※上流面は水面より上部を対象）の変状を調査し、変状箇所を図面上に記載する。調査内容については次のとおりとする。

（調査対象項目）

調査対象項目
・クラック（クラックの有無、形状、付随物の有無、漏水の有無等）
・漏水（水平打継目、横継目等）
・剥離・剥落
・摩耗（越流部等）
・その他

(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるものとする。

(3) 定点監視位置を選定するとともに監視計画を作成する。

(4) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-2-2　監査廊

(1) 目視（簡易な計測を含む）又は写真により監査廊コンクリートの変状を調査し、変状箇所を図面上に記載する。調査内容については次のとおりとする。

（調査対象項目）

調査対象項目
・クラック（形状、最大幅、長さ、付随物の有無、漏水の有無等）
・エフロレッセンス、遊離石灰
・打継目、目地等からの漏水
・錆汁
・部材表面の膨張
・ブロック間の段差、開き
・その他

(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるものとする。

(3) 定点監視位置を選定するとともに監視計画を作成する。

(4) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-2-3　余水吐

(1) 目視（簡易な計測を含む）又は写真により余水吐コンクリート（減勢工、越流部上部の橋梁を含む）の変状を調査し、変状箇所を図面上に記載する。調査内容については次のとおりとする。

（調査対象項目）

調査対象項目
・クラック（クラックの有無、形状、付随物の有無、漏水の有無）
・エフロレッセンス、遊離石灰
・打継目、目地等からの漏水
・鉄筋露出
・錆汁
・部材表面の膨張
・剥離・剥落
・摩耗
・目地の段差、開き

・その他

(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるものとする。
(3) 定点監視位置を選定するとともに監視計画を作成する。
(4) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-3　監査廊における漏水量調査

監査廊におけるクラック、打継目、目地等からの漏水がある場合において貯水位変化に対する連動性を確認することを目的に漏水量を計測する。

3-8-4　観測施設に関する調査

3-8-4-1　浸透量（漏水量）

(1) 貸与する計測データ（昭和 50 年度～令和 2 年度）等に基づき次の内容を整理し、劣化状況を判定するものとする。
・特定の水位での基礎浸透量の変化（基礎浸透量と貯水位との相関等）
・基礎浸透量の経年的な傾向及び過去の値との比較による異常な基礎浸透量の有無（基礎浸透量の経時的変化等）
・継目浸透量の経年的な傾向（継目浸透量の経時的変化等）
・浸透水の濁りの状況（平常時及び降雨時）
(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるものとする。
(3) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-4-2　揚圧力

(1) 貸与する計測データ（昭和 50 年度～令和 2 年度）等に基づき次の内容を整理し、劣化状況を判定するものとする。
・特定の水位での揚圧力の変化（揚圧力と貯水位との相関等）
・揚圧力の経年的な傾向及び過去の値との比較による異常な揚圧力の有無（揚圧力の経時的変化等）
・揚圧力の管理基準値の対比
(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるものとする。
(3) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-4-3　変形

(1) 貸与する計測データ（昭和 50 年度～令和 2 年度）等に基づき次の内容を整理し、劣化状況を判定するものとする。
・特定の水位での変形量の変化（変形量と貯水位、季節変化との相関等）
・変形量の経年的な傾向及び過去の値との比較による異常な変形量の有無（変形量の経時的変化、累積増加傾向等）
(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるものとする。
(3) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-4　観測結果の分析及び安全性評価指標の検討

浸透量、揚圧力、変形量に関する計測データを用いて長期傾向分析、影響要因評価などの分析を実施したうえで、安全性評価指標の検討を行う。

3-8-5　貯水池内・堤体周辺の法面調査

3-8-5-1　貯水池内調査

(1) 目視（簡易な計測を含む）又は写真により貯水池内の法面及び斜面の変状を調査し、変状箇所を図面上に記載する。調査内容については次のとおりとする。なお、本調査実施にあたっての巡視船の操船費用、燃料費用、機械経費用は含まないものとする。

・法面の陥没・はらみ出し
・法面又は周回道路における亀裂、段差・ずれ
・法面からの湧水
・その他変状

(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるとともに、記録写真を整理するものとする。

(3) 定点監視位置を選定するとともに監視計画を作成する。

(4) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-8-5-2　堤体周辺調査

(1) 目視（簡易な計測を含む）又は写真により堤体周辺の法面及び斜面の変状を調査し、変状箇所を図面上に記載する。調査内容については次のとおりとする。

・法面保護工の崩落
・法面工の亀裂、段差・ずれ
・法面からの湧水
・その他変状

(2) 調査職員が指示する様式に基づき調査結果をとりまとめるとともに、記録写真を整理するものとする。

(3) 定点監視位置を選定するとともに監視計画を作成する。

(4) 調査職員が指示する健全度判定基準に基づき健全度を判定する。

3-9　報告書作成

3-9-1　報告書作成（線的構造物）

調査成果に基づき報告書を作成する。

3-9-2　報告書作成（点的構造物）

調査成果に基づき報告書を作成する。

3-9-3　報告書作成（パイプライン）

調査成果に基づき報告書を作成する。

3-9-4　報告書作成（コンクリートダム）

調査成果に基づき報告書を作成する。

４．現況水利機能の照査及び対応策の検討

第１節　業務目的

下表に示す現況施設について、健全度評価に基づき現況水利機能の照査（最大通水能力の照査）を行うものとする。

施設名	最大通水量	延長	備考
三奈木導水路・寺内幹線（第２分水工・寺内水槽・寺内分水工含む）	2.780m3/s	約 0.5km	
女男石右岸（西部導水）	7.980m3/s	約 0.4km	農水 7.138m3/s、上水 0.842m3/s
甘木橋頭首工右岸取水施設	1.305m3/s	約 0.3km	

第 2 節　業務内容

2-1　現地踏査

業務実施に必要となる現地踏査を行うものとする。

2-2　資料の検討

業務実施に必要な資料収集及び貸与資料の内容を把握するものとする。

2-3　現況施設における最大通水能力の照査

貸与資料を利用して、第 1 節の表に示す施設毎に現況施設における最大通水量の流下が可能か水理計算等により照査を行った上で、最大通水能力を算出するものとする。なお、水理計算に用いる諸条件は調査職員が別途指示するものとする。

2-4　現況施設改修案の構想設計及び概略検討

2-3 の最大通水量の照査結果に基づき、より最適に最大通水量を流下させる方法として、現況施設を利用した改修案の構想設計（見積りを行う上では１施設分とし、0.5km を想定する）を行うものとする。改修案の構想設計にあたっては、３案程度検討した上で最適な改修案を選定するものとし、選定した改修案について、概略検討を行うものとする。

2-4-1　改修案の構想設計

2-4-1-1　基本条件の検討

構造物の立地条件や構造条件を踏まえ３案程度の改修案について、概略を決定するものとする。

2-4-1-2　水理計算

2-4-1-1 で概略決定した３案程度の改修案について、定常水利解析により概略水理計算を行い、最大通水量での流下状況を確認するものとする。

なお、水理解析にあたり、非定常状態での水理計算が必要となる場合は調査職員と協議するものとする。

2-4-1-3　改修案の選定

３案程度の改修案について、水理面、構造面（概略の構造計算を含む）、施工面、経済性（維持管理費用を含む）観点から、最適な改修案を１つ選定するものとする。

2-4-2　改修案の概略検討

2-4-2-1　平面図等作成

2-4-1 で選定した改修案について、平面図を作成するとともに、標準断面図も作成するものとする。

2-4-2-2　数量計算

2-4-1 で選定した改修案について、土工、コンクリート、鉄筋、型枠、管、仮設工材料等について、代表断面における概略数量計算を行うものとする。

2-4-2-3　概算工事費積算

数量計算結果等を基に概算工事費を算定するものとする。

2-4-3　総合検討

上記作業について総合的な検討を行うとともに、今後の作業についてコメントを付記するものとする。

2-4-4　照査

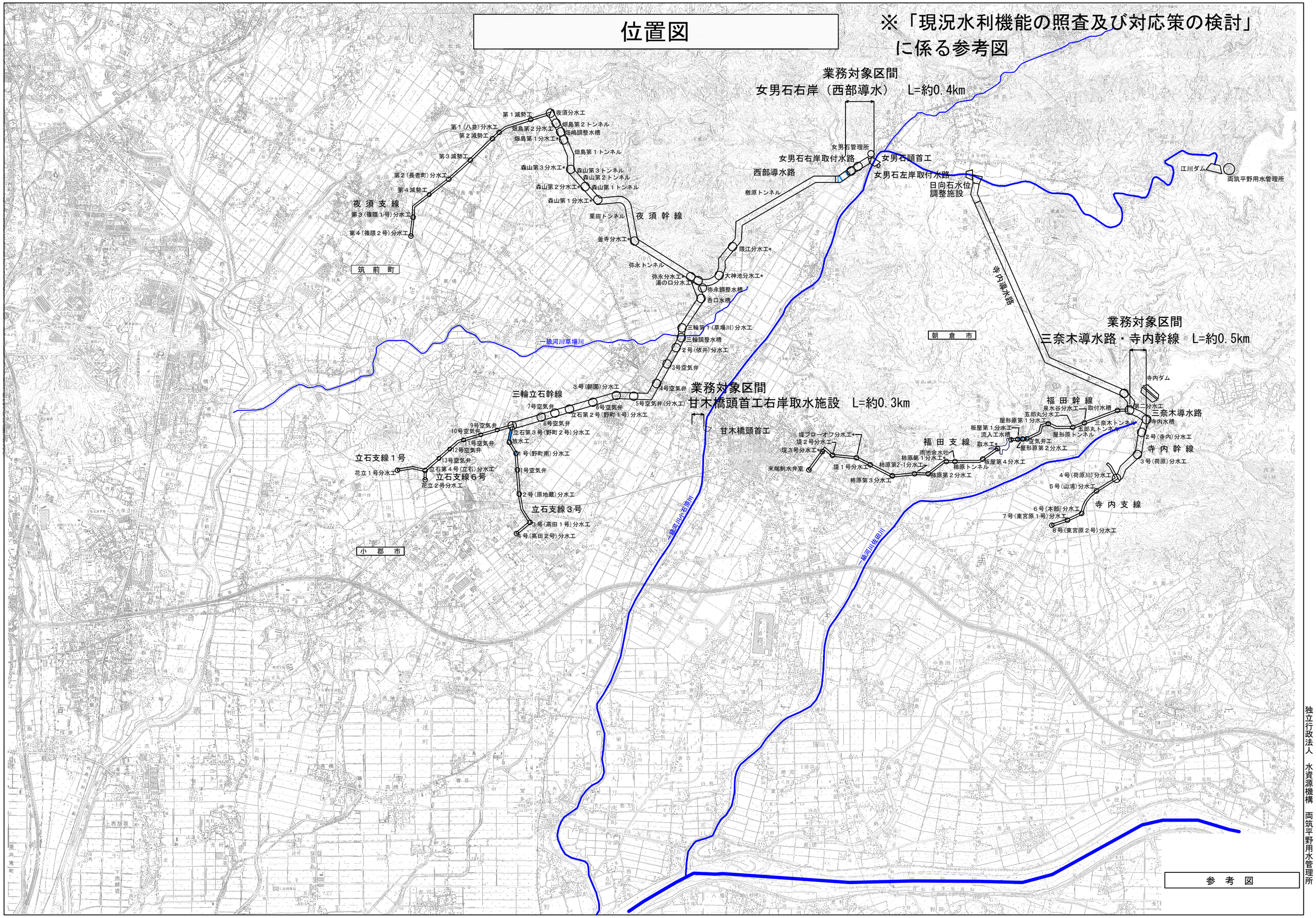
照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行うものとする。

2-5　報告書作成

上記成果を総合的にとりまとめるとともに報告書を作成するものとする。

位置図

※「現況水利機能の照査及び対応策の検討」に係る参考図



独立行政法人　水資源機構　両筑平野用水管理所

位置図（佐田川）

業務対象区間
三奈木導水路・寺内幹線
L=約0.4km
寺内導水路
寺内ダム
三奈木導水路
福田幹線
第二分水工
寺内水槽
寺内分水工
寺内幹線
荷原分水工
荷原川分水工
山浦分水工
秋月ゴルフ場
庄屋村
荷原
札木
川原
参考図

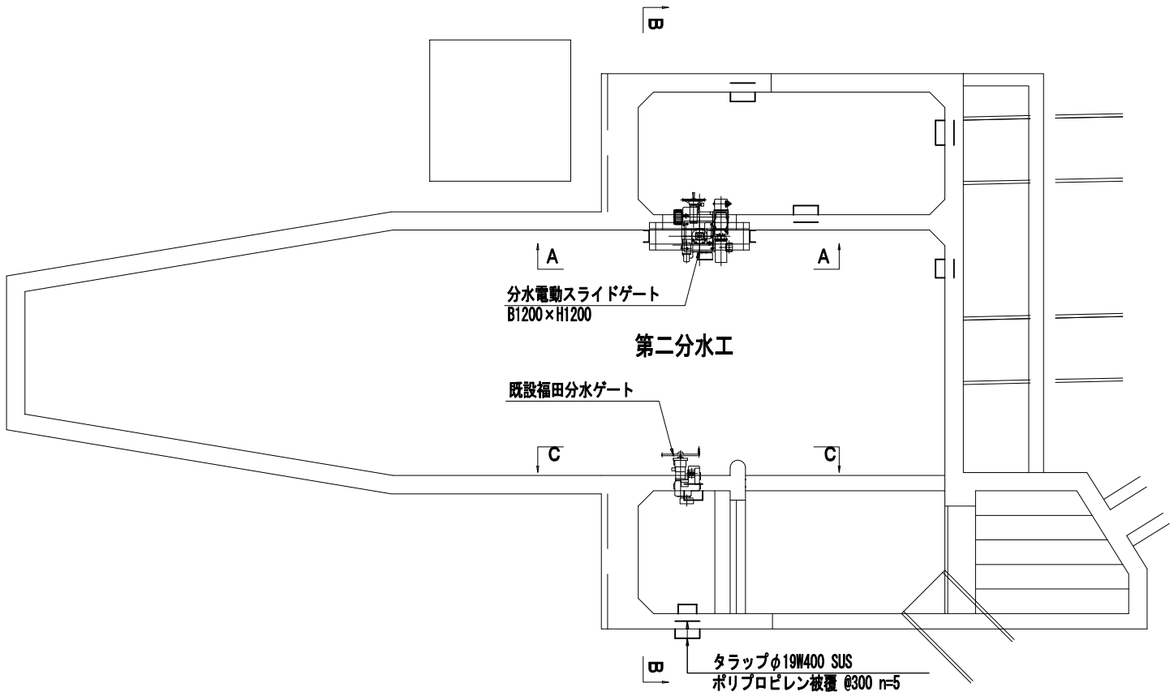
一般構造図（第二分水工）

S=1:50

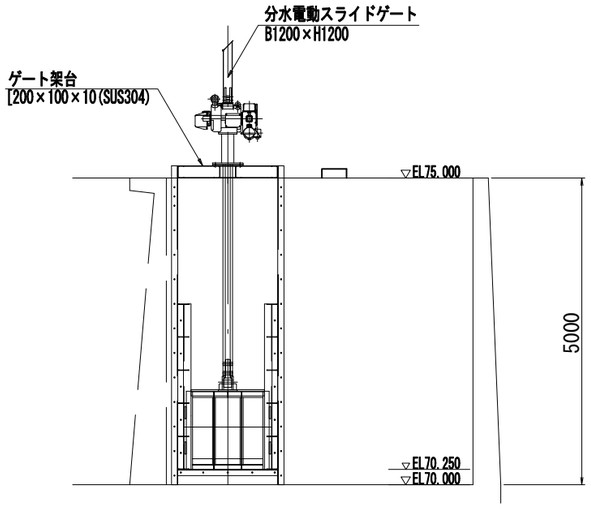
注 意 事 項

1. 単位
特に示さない限りすべての寸法はmm単位で示し、標高、水位はmで示す。

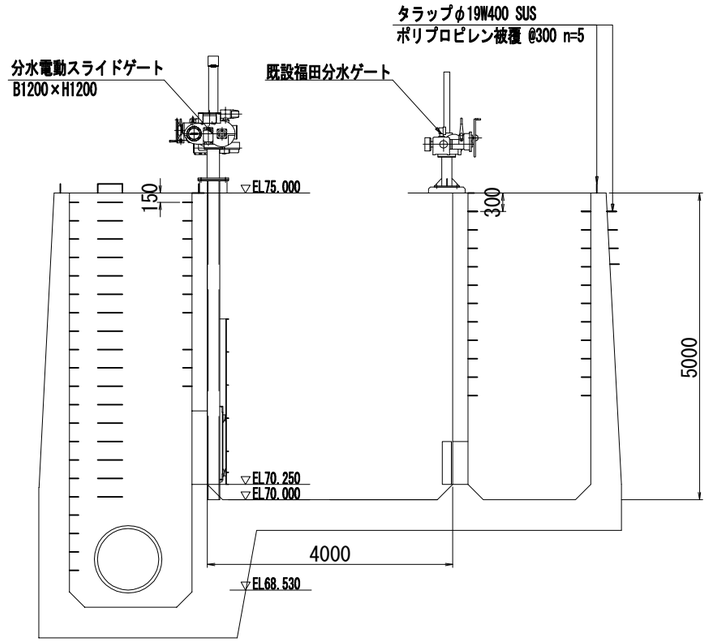
平 面 図



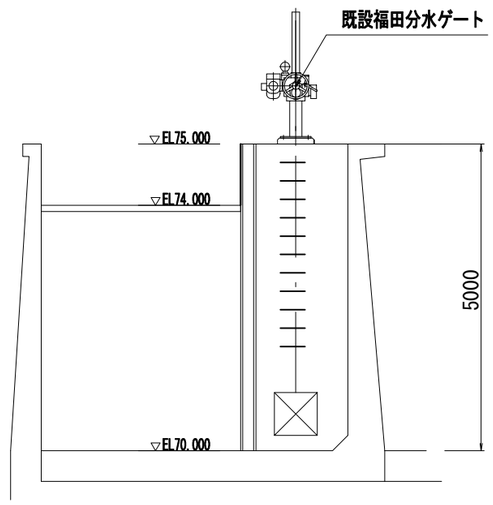
A-A断面図



B-B断面図



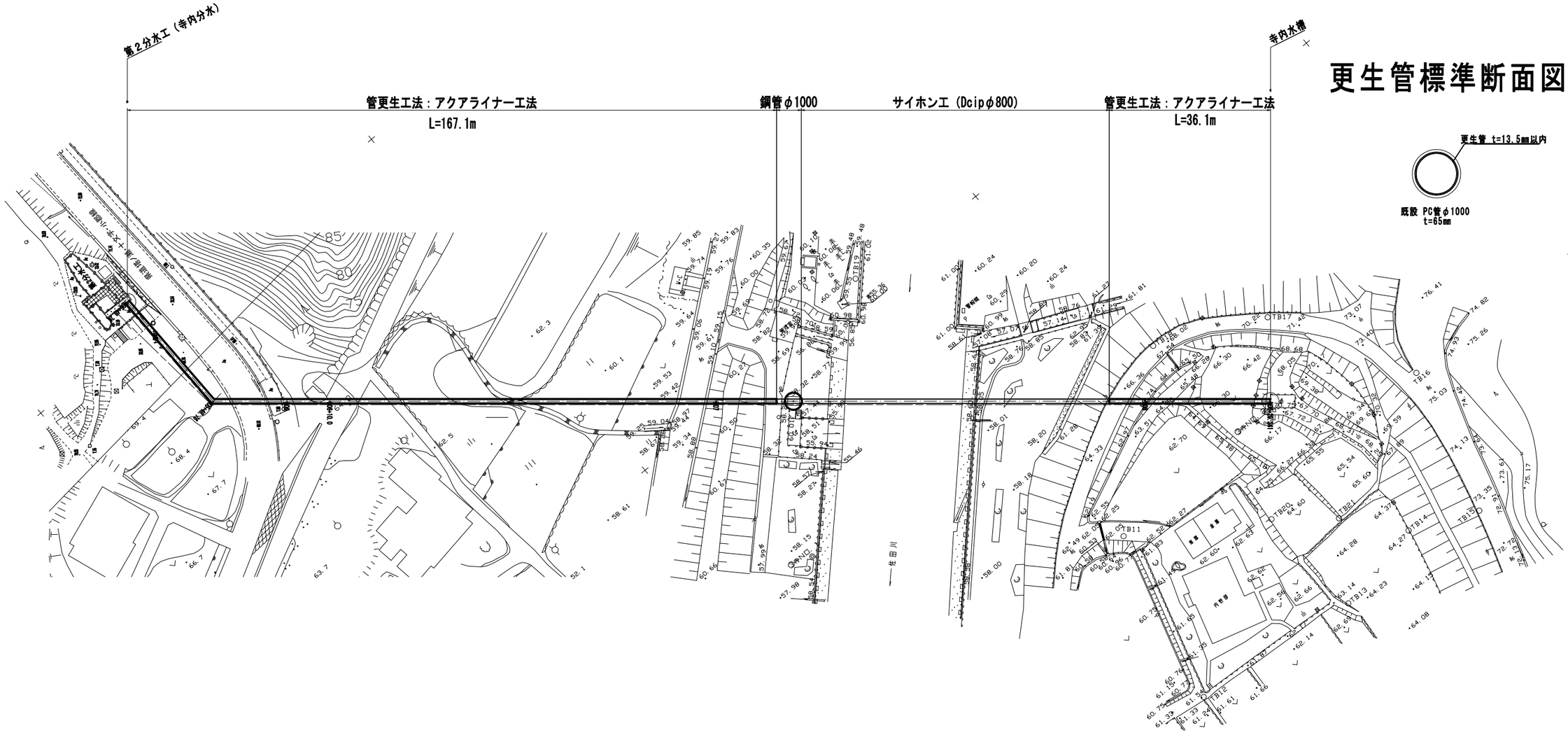
C-C断面図



工事名	
名 称	一般構造図（第二分水工） 参考図
登録番号	整理番号
独立行政法人 水資源機構 筑後川上流総合管理所	

三奈木導水路　計画平面図 S=1:500

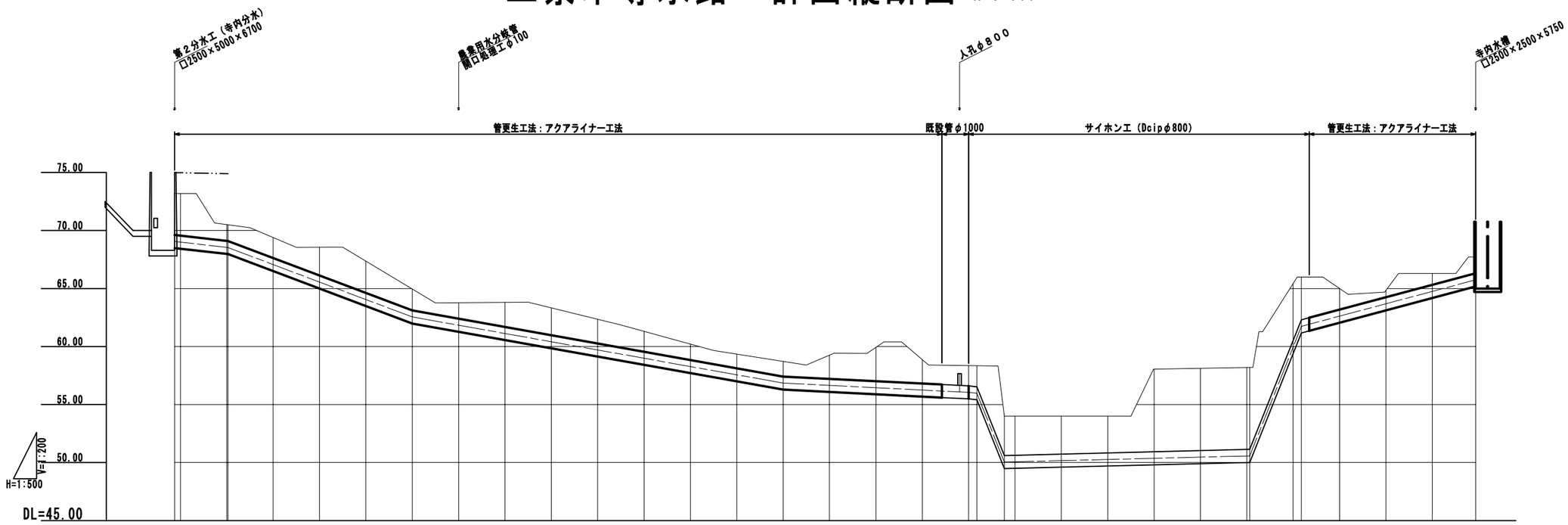
注意事項
1.寸法の表記は、特に示さない限り標高はmとし、その他はmmとする



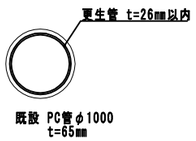
更生管標準断面図

工事名	
名 称	三奈木導水路　計画平面図　参考図
登録番号	整理番号
独立行政法人　水資源機構　筑後川上流総合管理所	

三奈木導水路　計画縦断図 V=1:200 H=1:500



更生管標準断面図



注意事項
1.寸法の表記は、特に示さない限り標高はmとし、
その他はmmとする。

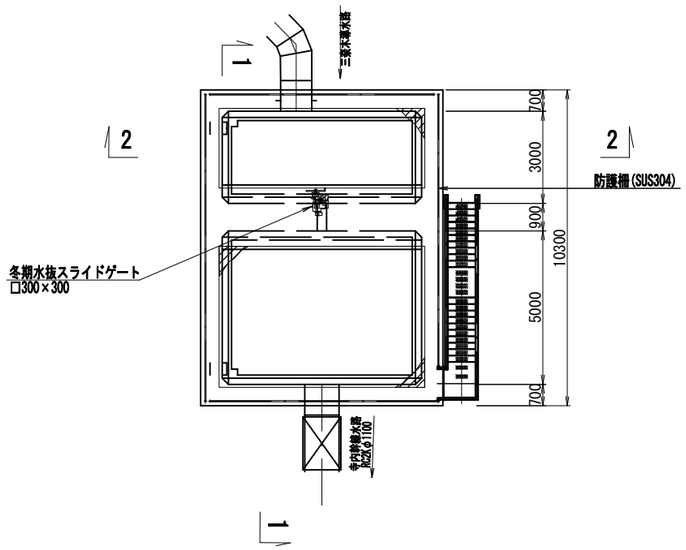
工事名	
名 称　三奈木導水路　計画縦断図　参考図	
登録番号	整理番号
独立行政法人　水資源機構　筑後川上流総合管理所	

一般構造図　(寺内水槽)

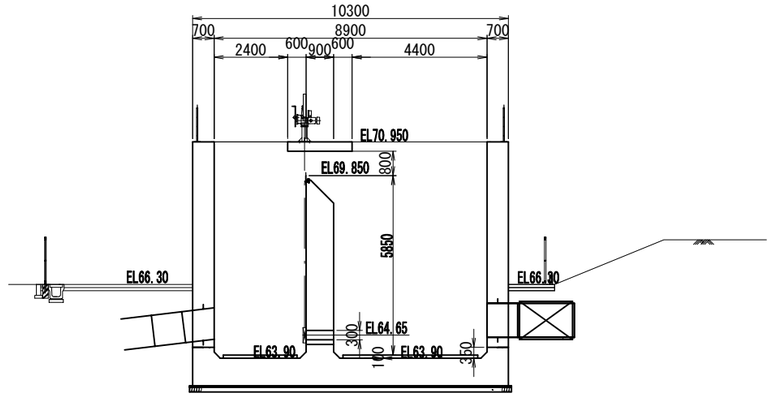
注意事項

1. 寸法の規格は、特に示さない限り標高は(m)とし、その他は、(mm)とする。

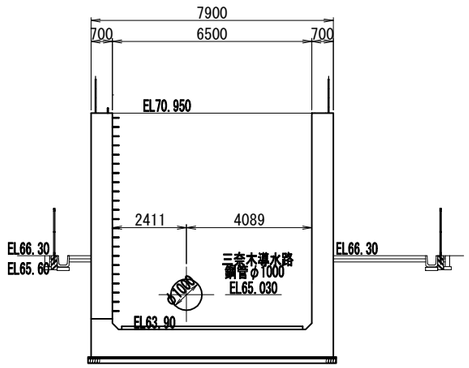
平面図　S=1:100



1−1断面　S=1:100



2−2断面　S=1:100

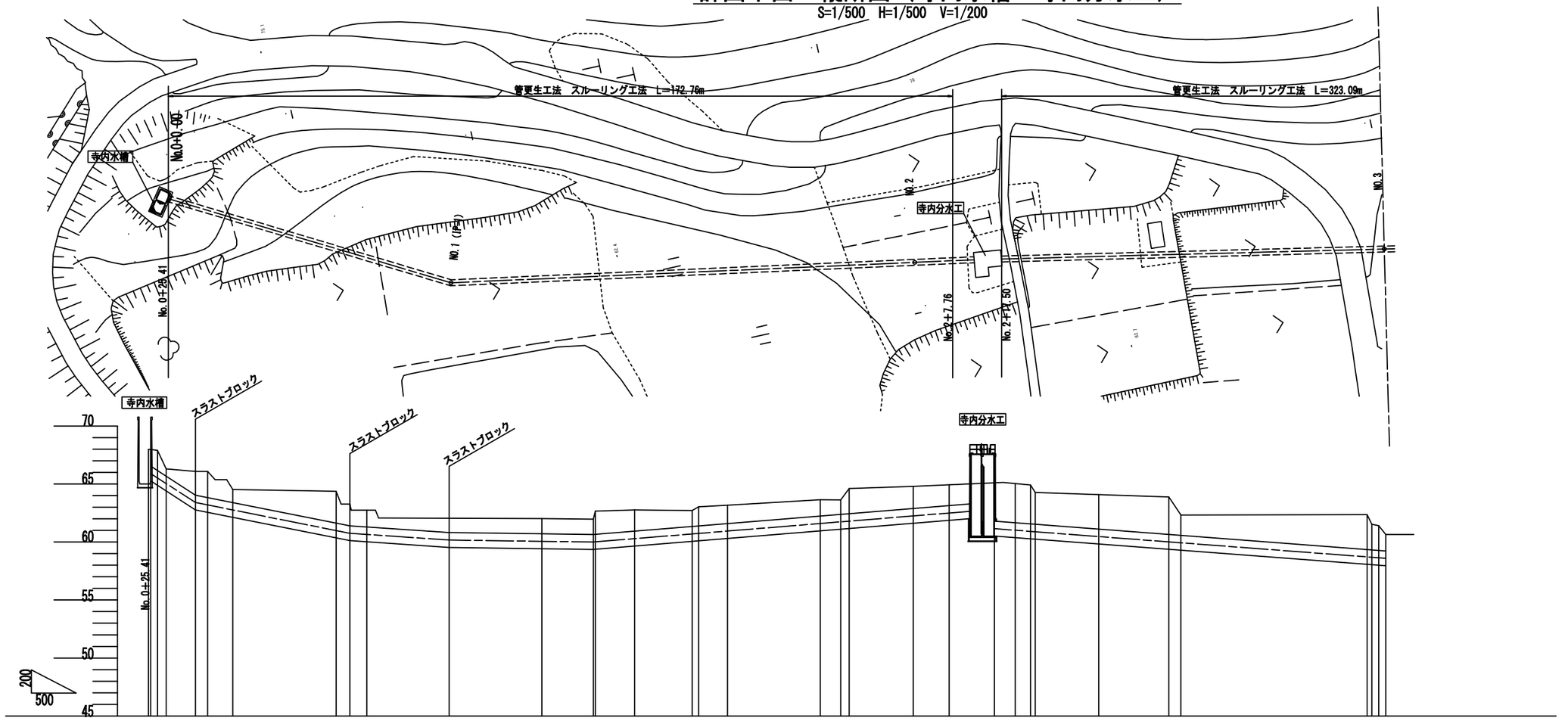


工事名	
名　称　　一般構造図　(寺内水槽)　参考図	
登録番号	整理番号
独立行政法人　水資源機構　筑後川上流総合管理所	

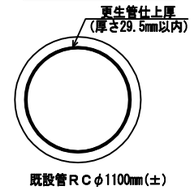
注意事項
1.寸法の規格は、特に示さない限り標高はmとし、
その他はmmとする。

計画平面・縦断図（寺内水槽～寺内分水工）

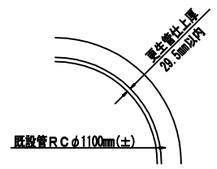
S=1/500　H=1/500　V=1/200



更生管標準断面図



更生管標準断面図



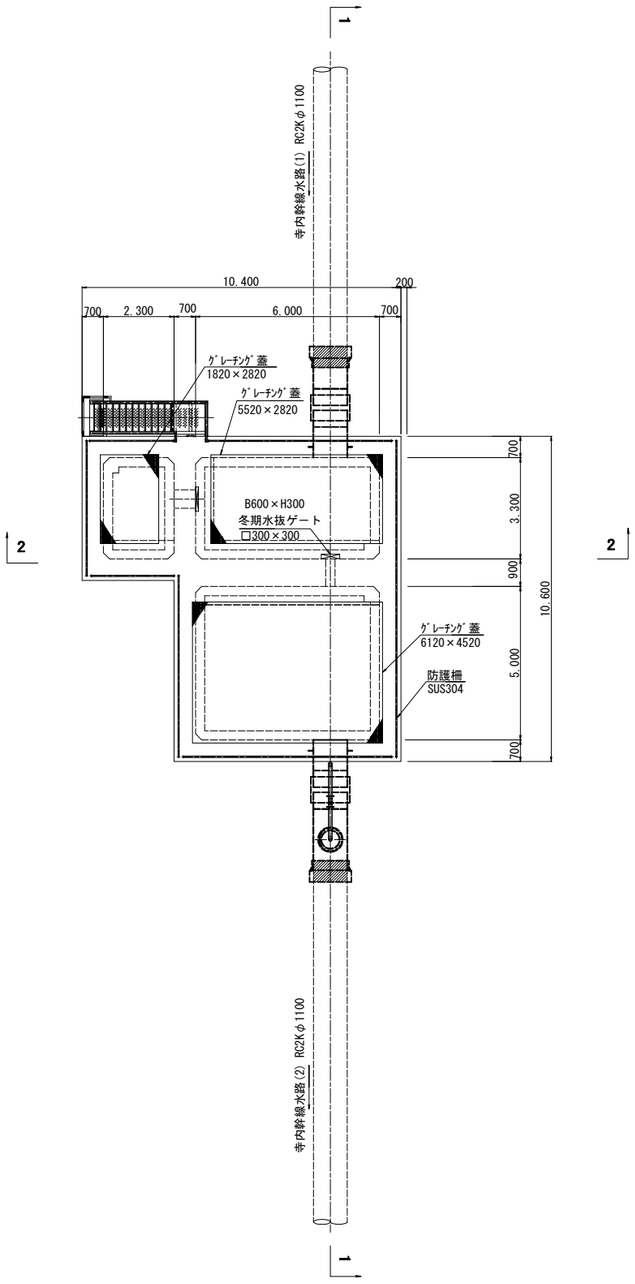
工事名	
名　称	計画平面・縦断図（寺内水槽～寺内分水工） 参考図
登録番号	整理番号
独立行政法人　水資源機構　筑後川上流総合管理所	

構造一般図(寺内分水工)

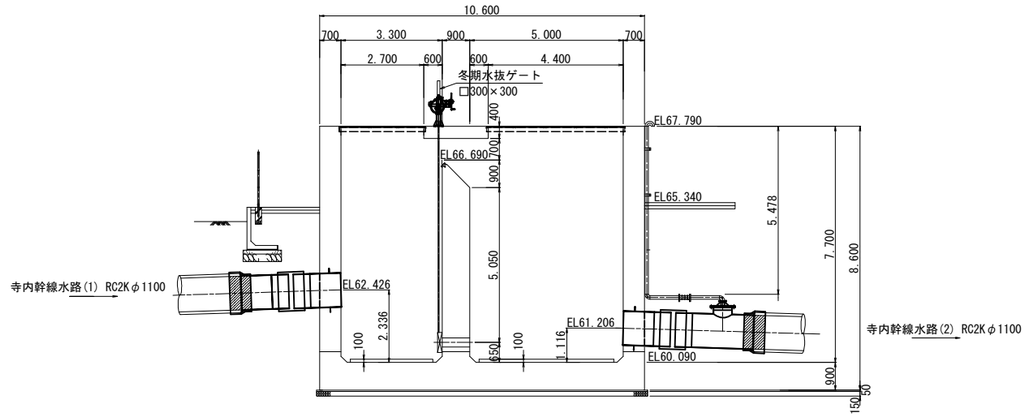
注 意 事 項

1. 寸法の規格は、特に示さない限り標高は(m)とし、
その他は、(mm)とする。

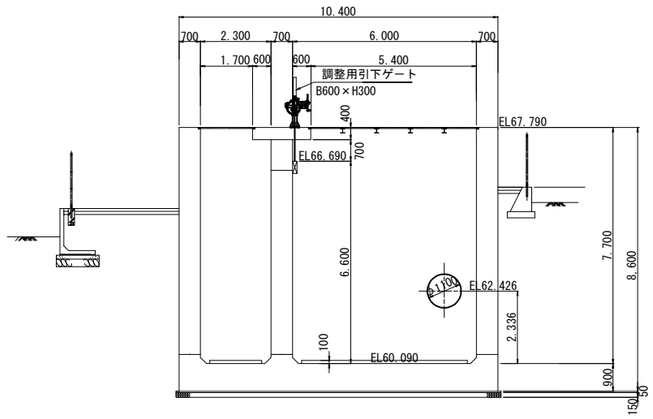
平面図 S=1:100



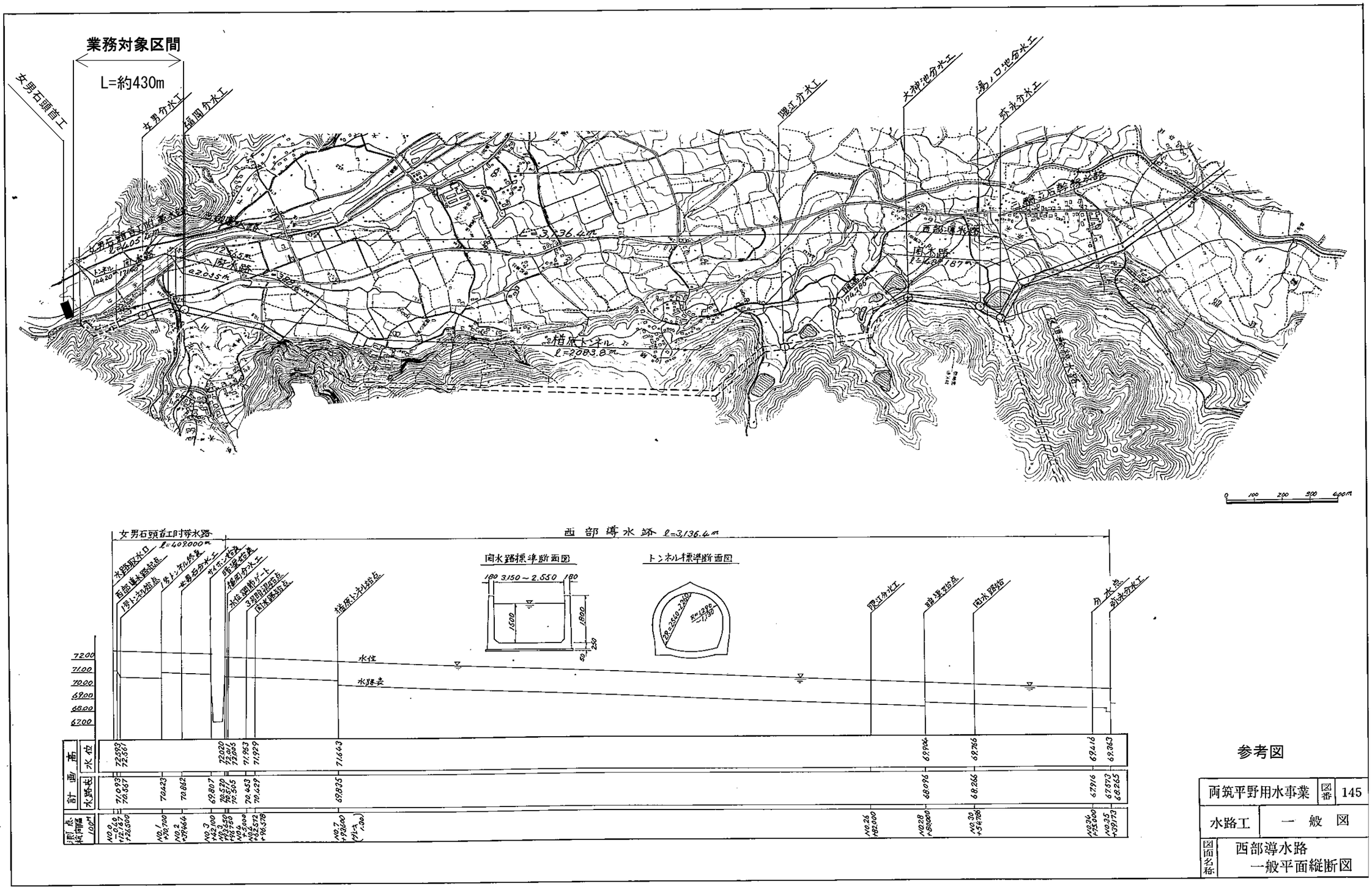
1ー1断面 S=1:100



2ー2断面 S=1:100



工事名	
名 称	構造一般図（寺内分水工） 参考図
登録番号	整理番号
独立行政法人 水資源機構 筑後川上流総合管理所	



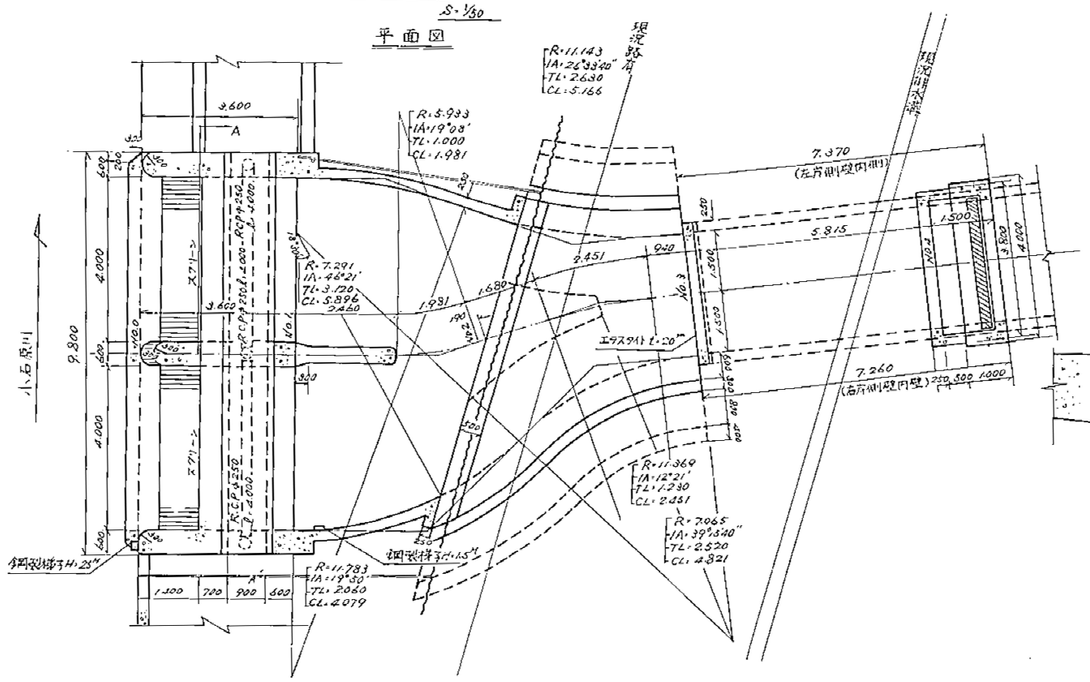
参考図

両筑平野用水事業	図番	145	
水路工	一般図		
図面名称	西部導水路 一般平面縦断図		

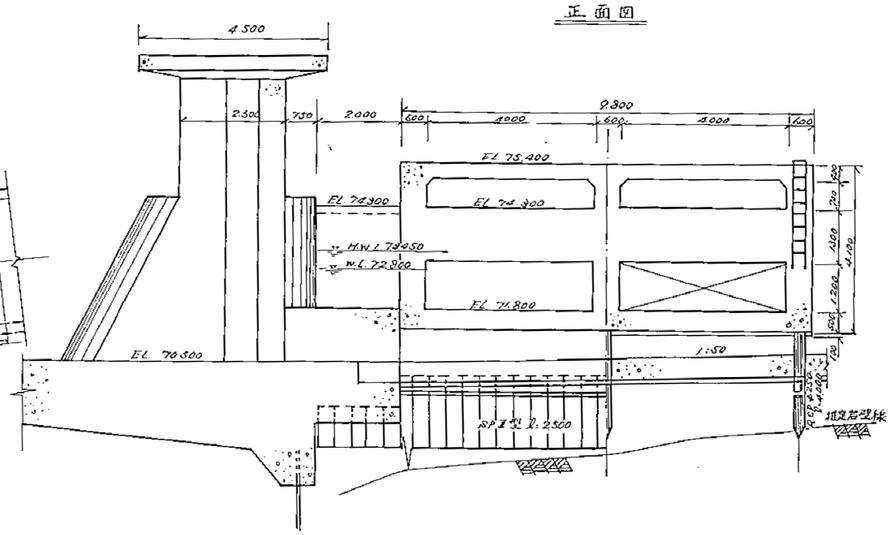
右岸取水口全体図

S:1/50

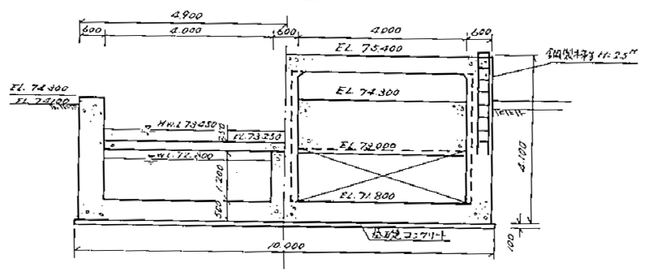
平面図



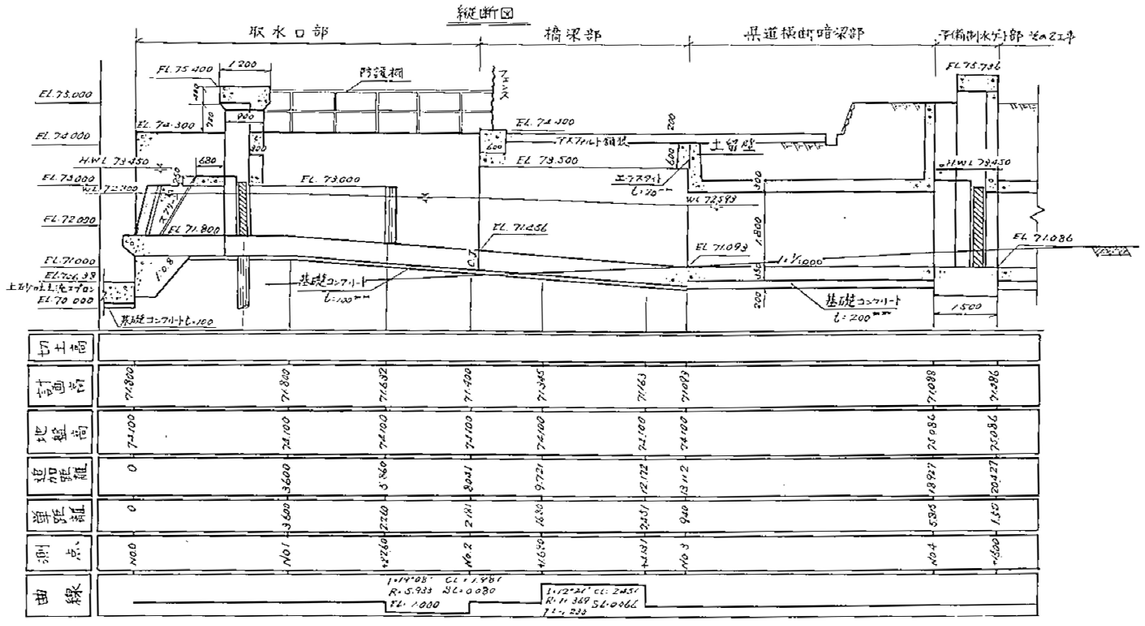
正面図



A-A'断面

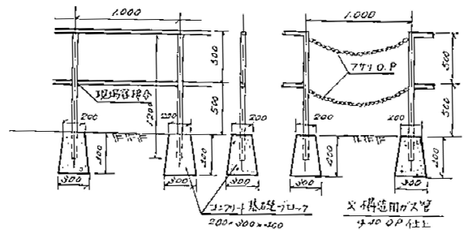


縦断図



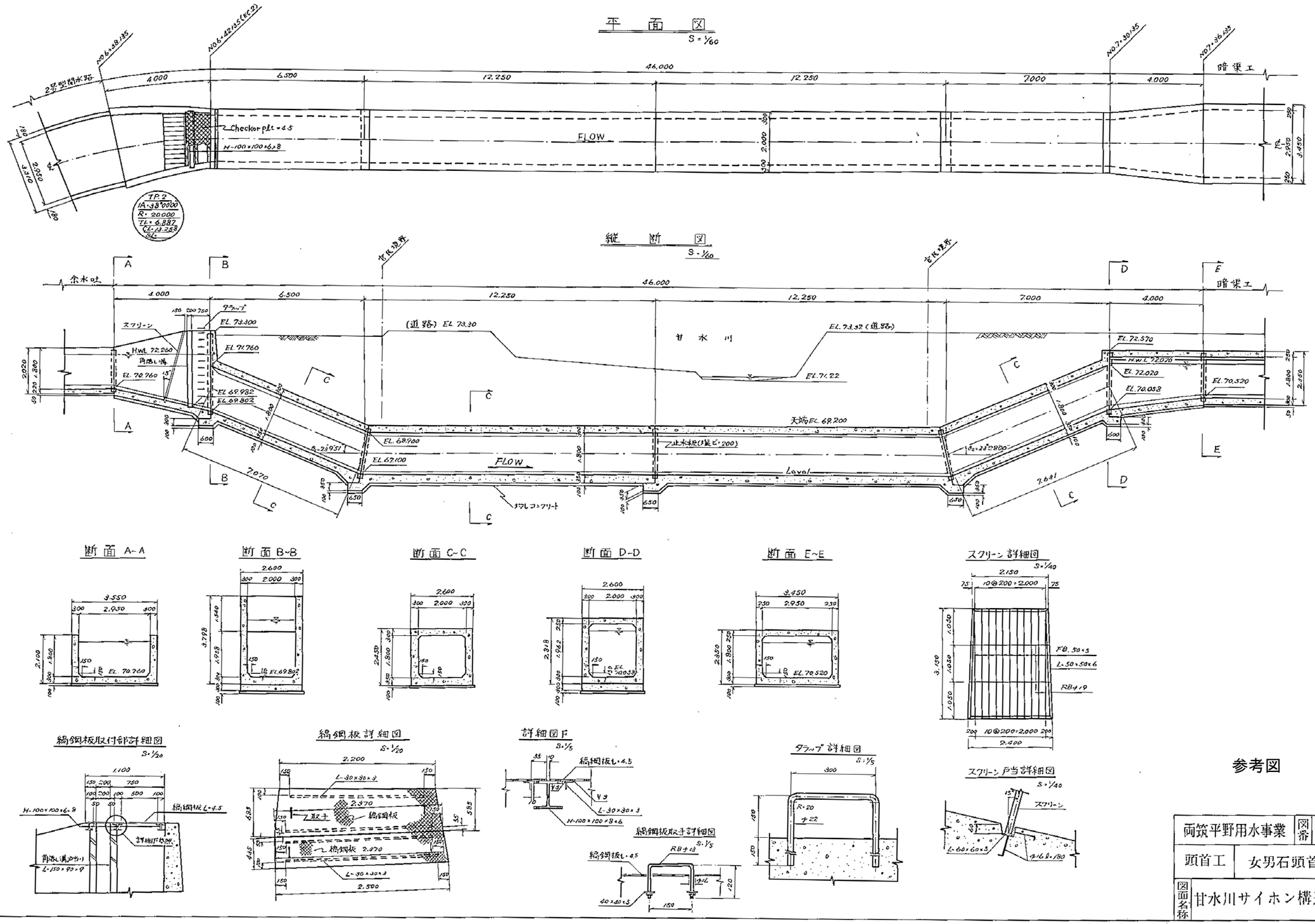
防護柵詳細図

S:1/20



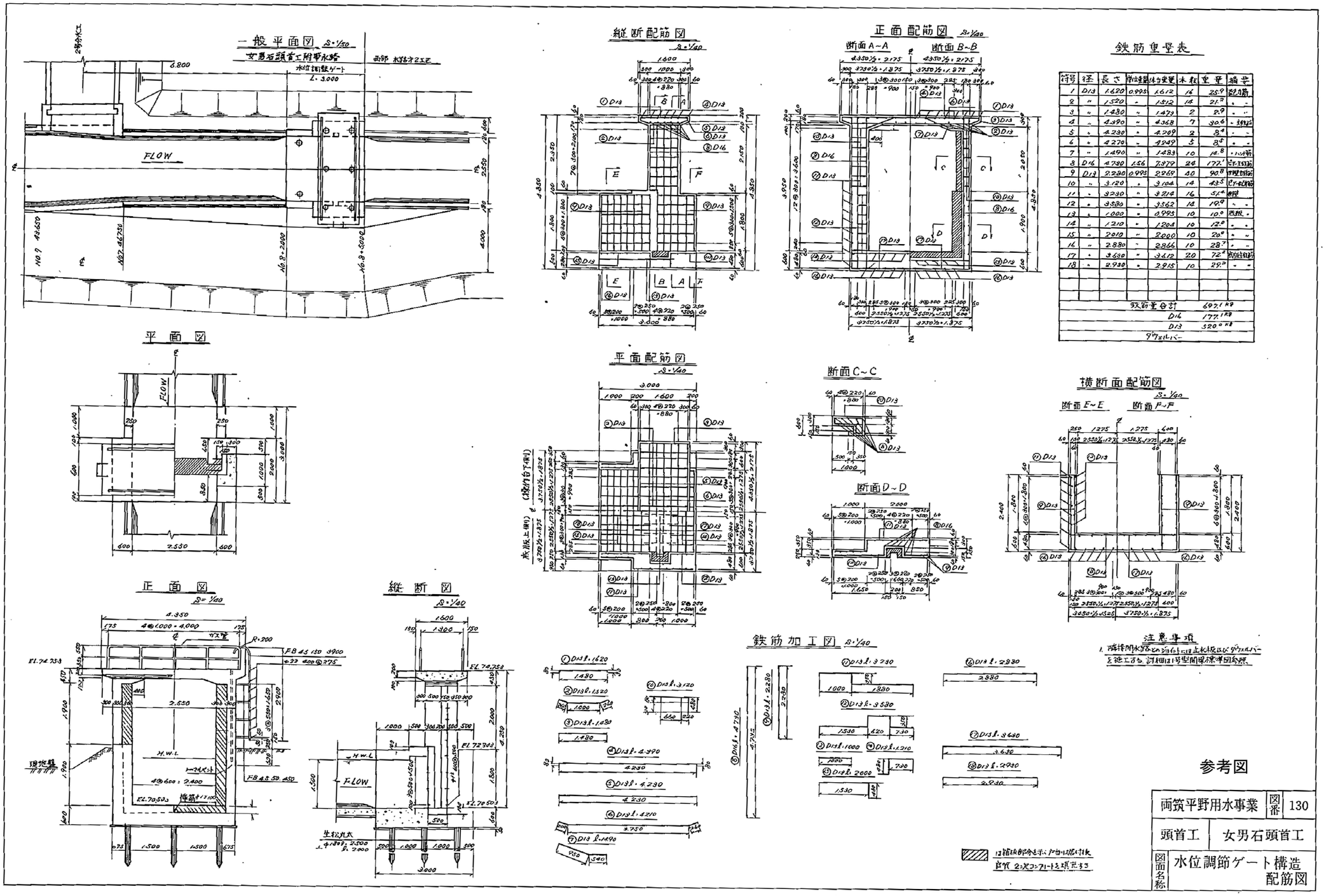
参考図

両筑平野用水事業	図番	114	
頭首工	女男石頭首工		
図面名称	右岸取水口構造図		



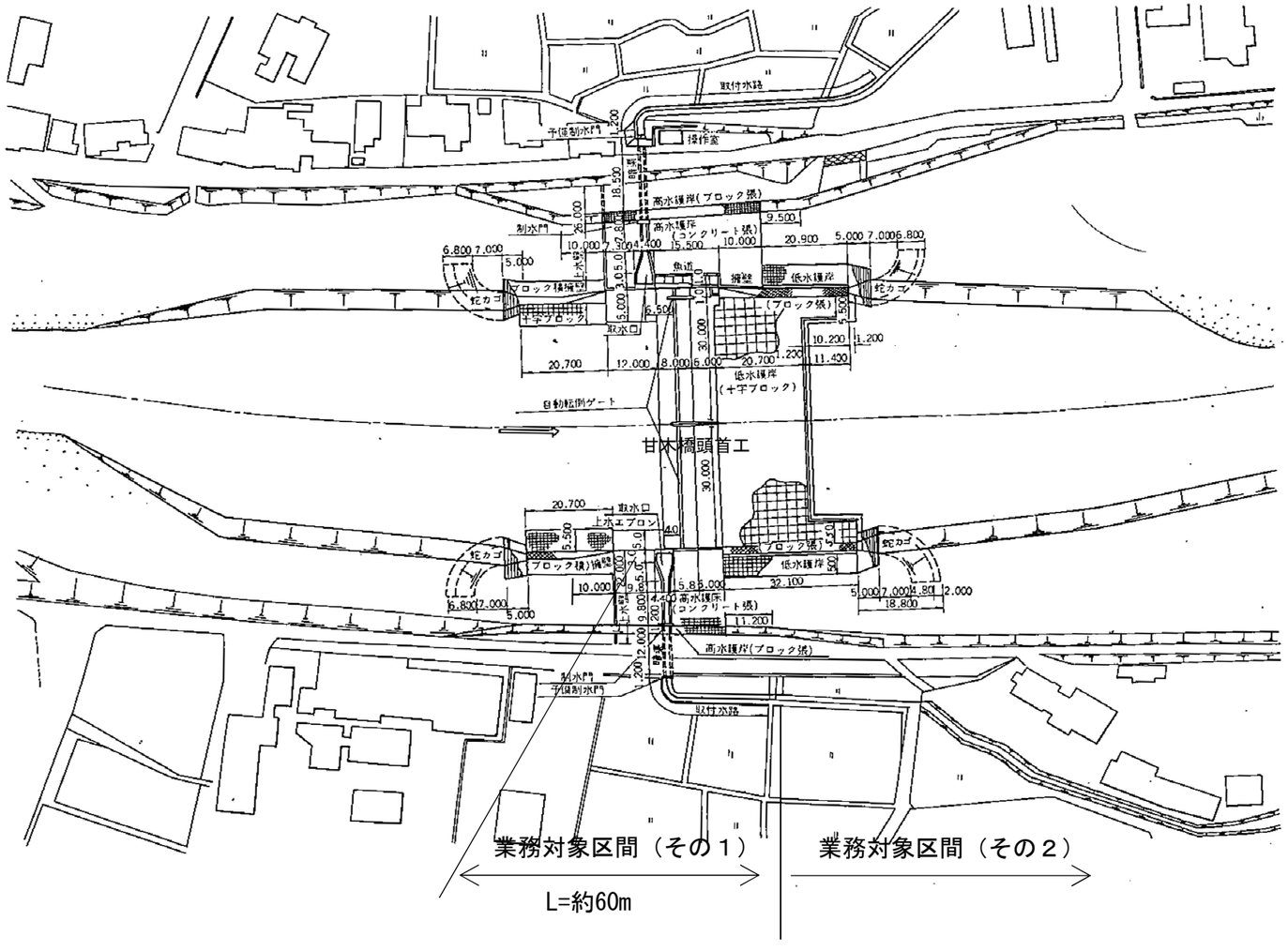
参考図

両筑平野用水事業		図番	125
頭首工	女男石頭首工		
図面名称	甘水川サイホン構造図		



鉄筋重量表

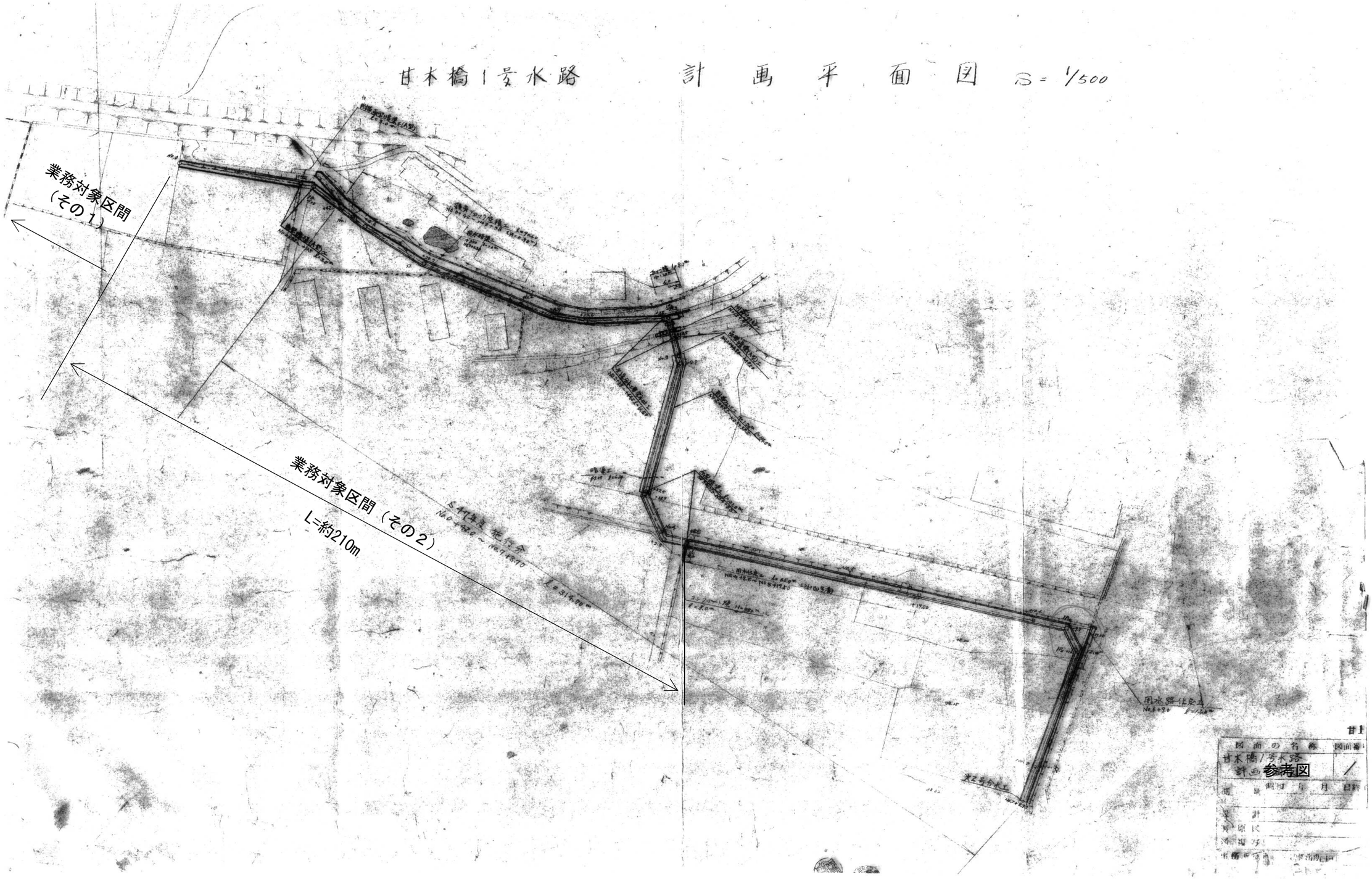
符号	径	長さ	単位重量	総重量	本数	重量	備考
1	D13	1.620	0.995	1.612	16	25.9	配力筋
2	〃	1.520	〃	1.512	14	21.9	〃 〃
3	〃	1.480	〃	1.473	2	2.9	〃 〃
4	〃	4.390	〃	4.368	7	30.6	主筋
5	〃	4.230	〃	4.209	2	8.4	〃 〃
6	〃	4.270	〃	4.249	2	8.5	〃 〃
7	〃	1.490	〃	1.483	10	14.8	ハンチ筋
8	D16	4.790	1.56	7.479	24	177.1	立上り主筋
9	D13	2.290	0.995	2.269	40	90.8	中間立上り筋
10	〃	3.120	〃	3.104	14	43.5	立上り配力筋
11	〃	3.230	〃	3.214	16	51.4	中間
12	〃	3.530	〃	3.562	14	19.9	〃 〃
13	〃	1.000	〃	0.995	10	10.0	底版 〃
14	〃	1.210	〃	1.204	10	12.0	〃 〃
15	〃	2.010	〃	2.000	10	20.0	〃 〃
16	〃	2.880	〃	2.866	10	28.7	〃 〃
17	〃	3.630	〃	3.612	20	72.2	底版中間
18	〃	2.930	〃	2.915	10	29.2	〃 〃



参考図

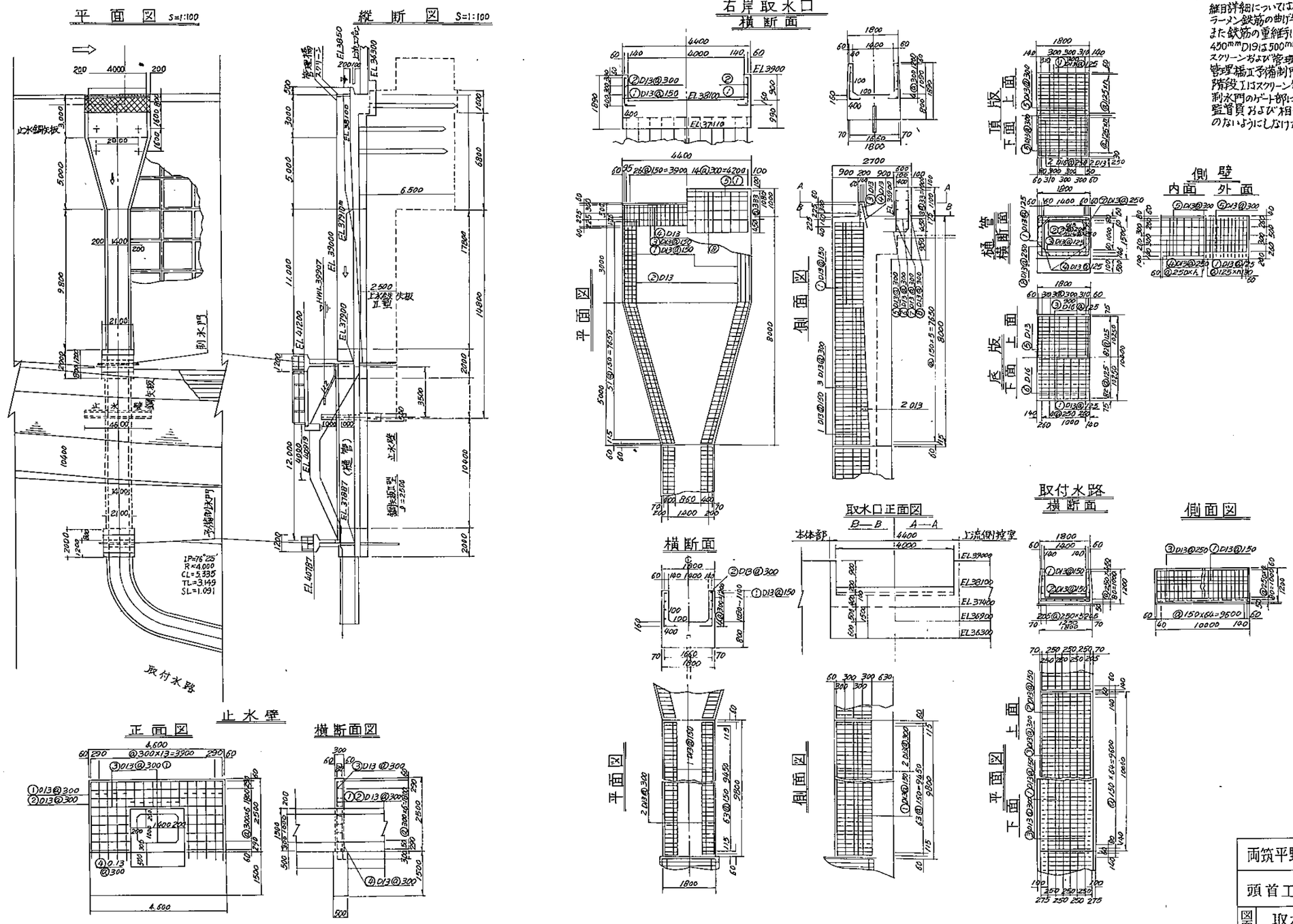
両筑平野用水事業		図番	131
頭首工	甘木橋頭首工		
図面名称	甘木橋頭首工 一般平面図		

甘木橋1号水路　計画平面図　S=1/500

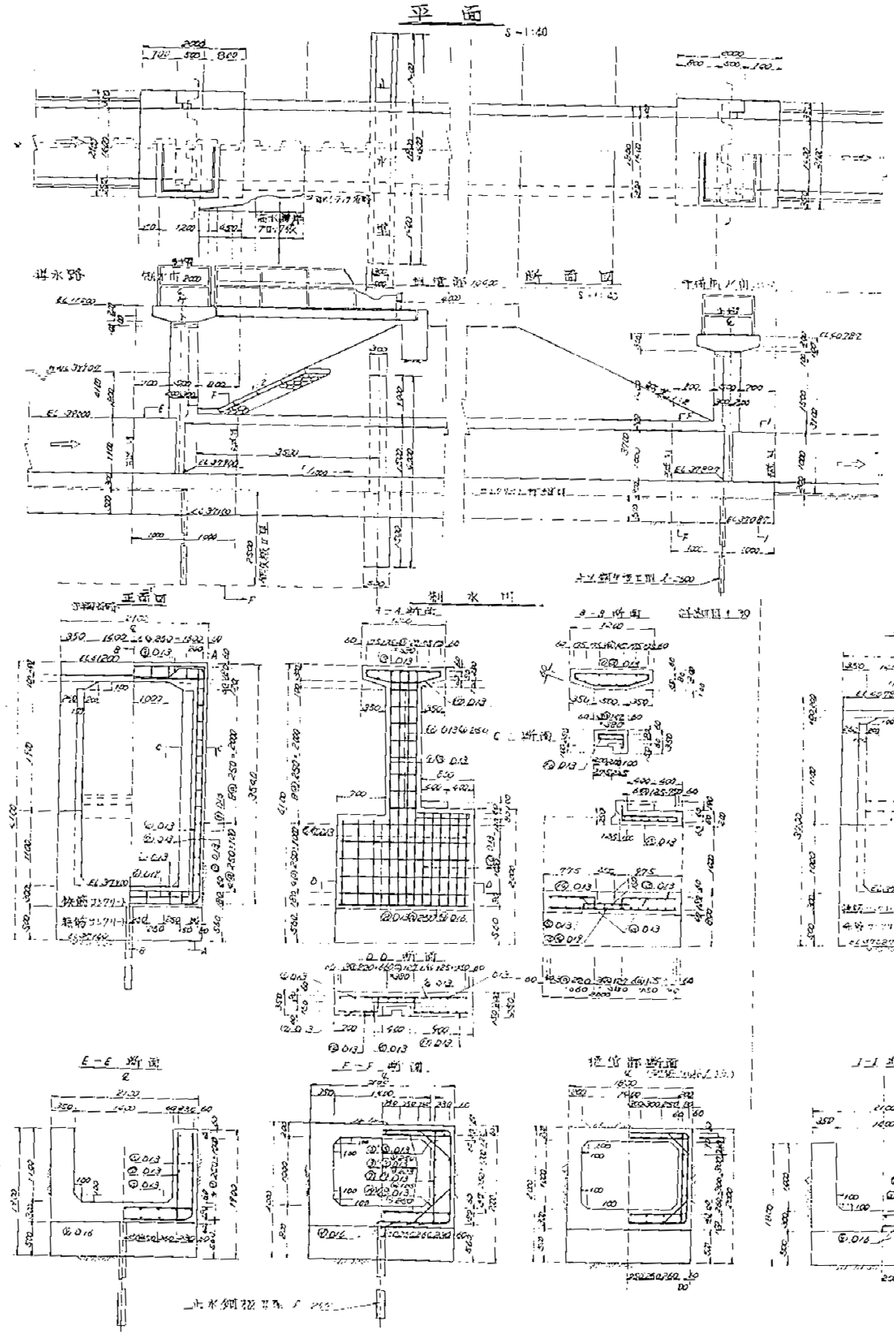


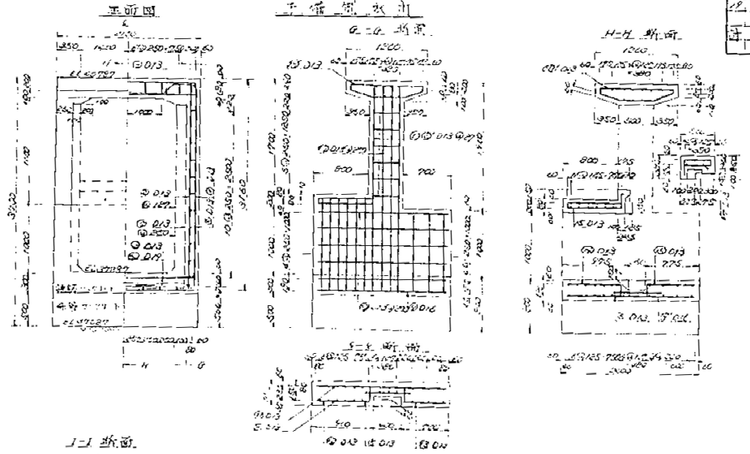
注意事項

鉄筋詳細については左岸取水工図参照のこと
ラーメン鉄筋の曲げ半径R=130mm(D13)とすること
また鉄筋の重ね継手についてD13は350mmD16は
450mmD19は500mm以上とすること
スクリーンおよび管理橋工制水門ハンドレール
管理橋工予備制門ハンドレール、クラップ法面
階段工はスクリーン管理橋詳細参照のこと
制水門のゲート部については出会帳場になるので
監督員および相手業者と充分協議して手落
のないようにしなければならない。



両筑平野用水事業		図番	140
頭首工	甘木橋頭首工		
図面名称	取水関係詳細図（右岸側）		





鉄筋表

取水口

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D13	1600	60	0.995	1592	95 520	
2	〃	1930	84	〃	1621	136 164	
3	〃	8100	10	〃	8060	80 600	
4	〃	4800	5	〃	4776	23 880	
5	〃	1650	31	〃	1642	50 902	
6	〃	4300	9	〃	4279	38 511	
7	〃	2280	15	〃	2269	34 035	
8	〃	0.930	35	〃	0.925	32 375	
9	〃	1640	15	〃	1633	24 495	
10	〃	2000	14	〃	1990	27 860	
計						426 631	427

導水路

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D13	1600	130	0.995	1592	206 960	
2	〃	1680	92	〃	1672	115 324	
計						322 284	326

面壁

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D13	6500	83	0.995	6527	541 741	
2	〃	1680	62	1.560	2621	162 502	
3	〃	〃	47	0.995	1672	78 584	
4	〃	〃	83	1.560	2621	217 543	
5	〃	3360	166	0.995	3343	554 878	
6	〃	7750	36	〃	7711	277 596	
7	〃	〃	7	1.560	12030	84 210	
8	〃	0.650	83	0.995	0.648	53 784	
9	〃	0.500	83	〃	0.498	41 368	
計						2 397 706	2 400

止水壁

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D13	2700	20	0.995	2687	53 740	
2	〃	0.850	12	〃	0.846	10 152	
3	〃	4.490	8	〃	4.468	35 744	
4	〃	1280	20	〃	1274	25 480	
計						125 116	125

取付水路

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D13	3930	67	0.995	3911	262 037	
2	〃	1660	67	〃	1652	110 684	
3	〃	1880	62	〃	1871	116 002	
計						488 723	489

制水門

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D22	12850	6	0.995	12791	76 746	
2	〃	3680	8	〃	3663	29 304	
3	〃	1880	63	〃	1870	117 810	
4	D19	〃	8	0.225	4.455	35 640	
5	D13	0.700	33	0.995	0.697	23 001	
6	〃	4.240	3	〃	4.220	12 660	
7	〃	1200	18	〃	1194	21 492	
8	〃	188	10	〃	187.1	1 871	
9	D16	〃	7	1.56	2.933	20 531	
10	D13	7.826	7	0.995	7.788	54 516	
11	〃	0.301	8	〃	1.035	8 280	
12	〃	0.780	12	〃	0.776	9 312	
13	〃	0.950	5	〃	0.923	4 615	
14	〃	0.880	5	〃	0.876	4 380	
15	〃	1.910	9	〃	1.910	17 190	
16	〃	1.070	16	〃	1.065	17 040	
17	〃	2.720	8	〃	2.706	21 648	
18	〃	0.880	14	〃	0.876	12 264	
計						470 547	471

予備制水門

記号	径	長さ	本数	単位重量	総重量	重量	摘要
1	D13	0.250	5	0.995	0.248	2 480	
2	〃	3.080	8	〃	3.065	24 520	
3	〃	1.580	59	〃	1.571	92 712	
4	D19	〃	8	0.225	4.455	35 640	
5	D13	0.700	33	0.995	0.697	23 001	
6	〃	4.248	3	〃	4.227	12 681	
7	〃	1.180	6	〃	1.176	7 056	
8	〃	1.380	12	〃	1.373	16 476	
9	D16	1.880	7	1.56	2.933	20 531	
10	D19	〃	16	0.225	1.871	29 936	
11	〃	9.526	7	〃	9.488	66 416	
12	〃	1.030	8	〃	1.025	8 200	
13	〃	0.830	10	〃	0.826	8 260	
14	〃	0.950	7	〃	0.945	6 615	
15	〃	0.890	7	〃	0.886	6 202	
16	〃	1.810	9	〃	1.800	16 200	
17	〃	1.070	6	〃	1.065	6 390	
18	〃	1.710	9	〃	2.606	24 954	
19	〃	1.190	14	〃	0.796	11 144	
計						431 765	432

注 1. □□ 部分は鋼板部を示す（鋼板の詳細については別紙図面に示す）

2. 止水鋼板のアンカーバーの本数は、工関係詳細図より、また、取水口、導水路の上部工の事

3. スクリーン、制水門、ストールログラックの詳細については別図参照のこと、注意して施工の事

4. コンクリート打設目地については仕様書に充分注意して施工の事

参考図

両筑平野用水事業		図番	141
頭首工	甘木橋頭首工		
図面名称	取水口関係詳細図（右岸側）		